

第5回非核平和都市宣言起草委員会会議録

日時：平成23年1月26日（水）15：30

場所：京田辺市役所3階305会議室

出席委員：水野恭子委員長・次田典子副委員長・河田美穂委員・井上昭弘委員
木元一志委員・藤井重博委員・藤田晴子委員・村岡秀子委員
石田義樹委員

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題 起草文（案）の確定について
- 4 今後の予定について
- 5 副委員長挨拶
- 6 閉会

【議事録】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長) 皆さんこんにちは。お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。昨年は、宣言文を起草するにあたって、本当に熱心な審議をしていただいて、仮の宣言文ができました。その後、パブリックコメントがありまして、本日をもってパブリックコメントの意見も入れて起草文を完成していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。今日は、本当にありがとうございます。

3 議題 起草文（案）の確定について

(委員長) それでは、これより議事に入らせていただきますので、よろしくお願ひいたします。それでは、「起草文（案）の確定について」を議題といたします。本日は、パブリックコメントで提出された意見に対する当委員会の考えをご協議いただき、起草文（案）を確定させる事となっておりますので、よろしくお願ひいたします。ここで、パブリックコメントの概要について、事務局より報告をお願ひいたします。

(事務局) 「第5回非核平和都市宣言起草委員会協議資料（以下「資料」という。）」2ページを説明。

(委員長) ありがとうございます。参考資料を一緒に広げて見ていただければ分かると思ひます。パブリックコメントを5名の方から7件いただいたという事で大変積極的な意見が出てきて良かったなと思ひます。1件1件ご協議をいただきたいと思ひます。協議資料の通り事務局で回答のたたき台を作成していただいております。提案者Aにつきまして、事務局より説明をお願ひいたします。

(事務局) 資料3ページを説明。

(委員長) ありがとうございます。今の提案者Aについて、「非暴力と対話」

というよりは、「武力ではなく対話で」という方が分かりやすい表現ではないかということで事務局案にあります。その辺りについてご意見ありましたら、あげていただきたいと思います。

(委員) 私は、「非暴力」という言葉の方が幅が広いと思うんですね。平和を構築するためには戦争がないだけが平和じゃないですよ。抑圧も差別も偏向も全て平和を阻止するものであるわけですから、「非暴力」というのはそういうのが全部入るのではないかと思いますし、「武力」と言ったら狭くなってしまいうように思います。「武力」が無くなったら平和が来るわけではないと思いますので、「非暴力」という言葉はすごく私はこれができた時に、「あついい言葉が入ったな」と思いました。子ども達も喧嘩したり、いじめをしたりとかが暴力にもつながっていくということで暴力という言葉が定着しているんじゃないかと思いますので、あえて「武力」とする必要はないのでは。そこまで狭くしてしまうと、それこそここに書いていらっしゃる経済封鎖って、それも暴力だと思いますけれども、それはもうなお対話をしながら平和に持って行く必要があります。現実的じゃないっておっしゃっていたけど、平和を構築するって事はもともと現実的じゃないと思うんですね。ですから、それでもなお私達はそれを求めていってるわけですから、私は「非暴力」というのは、別に悪い事じゃないなと思っています。だいぶ前に亡くなった沖縄の伊江島で非暴力の戦いをなされた阿波根昌鴻さんなんか「非暴力」で平和を作るっていうので、伊江島の軍事基地を取り戻したっていう運動がありましたよね。ですから、「非暴力」というには、私は別に抵抗を感じない。「武力」だけっていうのは、狭すぎるのではないかと思います。

(委員) はい。私も全く同じ意見で、「武力」というよりかは、「非暴力」と表現した方が幅が広いと思いますし、アメリカの同時多発テロも今でも暴力だと思いますし、そういう深い意味を込めた表現にしようと思えば、やはり「非暴力と対話」という事を、後世の世代に伝えていくという事が大事だと私は思いますので、「非暴力」という表現が良いと思います。

(委員) 子どもにとつたら、「武力」ではないっていうのは分かりやすい言葉で…非暴力というのは子どもにはわかりにくい言葉で…幅の広い言葉だと思います。大人には良いかもしれない。ただ、日本国憲法第9条には、確か「武力による威嚇」と書いてありましたね。

(委員) あの条文は、戦後ですから、やっぱり「武力」で良いんじゃないですか。でも平和を構築するには、そんな先じゃないんじゃないかという風に思いますので。

(委員) そうですね。平和というのは、いわゆる暴力や武力だけではなくて、いわゆる貧困も含まれれば、抑圧や差別、色んなもの全部含まれますからね。

(委員) それが無くならなきゃ、本当の平和とは言えないですからね。

(委員) 色々な意味があると思います。広い意味では。

(委員) 暴力で私も良いと思います。というのは、やはり今言われたように、広い意味でとらえるのか、戦争的な武力的行使だけが本当の平和なのか、という事になれば、ここでもコメントを出された人も経済封鎖も一つの暴力行為的な、それはソフトであれハードであれ、ハードが暴力であって、色々そういう人権、差別的な問題もあって、色々なそれはソフト的な暴力だという事を含めると、暴力という表現の方が幅が広いと言われてますので、私はそっちの方が良いのではないかなという思いがしました。

(委員) 私は、「武力」で良いと思いました。「非暴力」というのは、いい言葉とは思いますが、何となくとらえどころがないし、きっちり「武力」という言葉にした方が、すっきりして良いと思います。そんなふうに思いました。「非暴力と対話」となってますけど、非暴力と言った時に、対話でなく、じゃ他の術は何があるのか。「非暴力」で解決するという解決の仕方が何でしょうか。対話というものが一つあるし、対話というのは外して、「非暴力」で解決するとは、どういう事なのか。私は、それが思いつかないです。という事で、「非暴力」ではなく、「武力」という言葉が良いのではと思いました。

(委員) 難しい。意見の中に、「現実的ではない」、だから書かない。現実的に色々考えると、それこそまさに対話とかも、たくさん色んな事を書かなくちゃいけないので、子ども達にも「非暴力」の方が分かりやすいと思います。平和のためにはどういう事をしていかななくちゃいけないかっていう所が、「武力」だけであれば何か戦争を思い起こすので、自分達にちょっとあんまり関係がない、日本の今の子ども達にあんまり関係がないと思う可

能性があると思うので、「非暴力」でいじめとか今現実に起こっている事が関係がある、平和との結びつきがあると思っもらうには、「非暴力」の方が私は良いと思います。

(委員) はい。事務局の案に、考え方は同じですが、確かに「非暴力」はインパクトのある言葉なんですね。これまでの宣言で使ってる所は、調べた限りではありません。ですから、インパクトはあるんですけども、果たして、もともと子ども達に分かりやすくという様なコンセプトがありましたので、果たしてそれが、幅が広がりすぎてどうかな。と、子ども達に対するインパクトはどうかな。という思いがあります。それと、暴力とは何かと調べた時に、肉体的な部分もそうなんですけども、経済的な部分への圧力、これも暴力と書いていました。ここにおっしゃっている様な経済封鎖は、現に現実的にやっていますのでね。あの、子ども達がそういう事を考えた時に、どうなのかなという様な疑問が出てくるんじゃないかなというふうな事もありますし、「武力」という事であれば、大変分かりやすいなというふうに思います。それと「非暴力と対話」というのは、「非暴力」は、幅が広い。「対話」は、その手段の一つですね。だから、並べる事がね、ちょっとバランス的にどうなのかなという気はしました。まあ、一番思ったのは、子ども達に分かりやすい言葉を残したいということです。

(委員) 非核平和都市宣言というのは、やはりあらゆる暴力を否定するっていう事で、平和を構築するとかは、なかなか難しいとは思っていますよ。そういう意味では、暴力っていう事は重大であって、是非つめていただきたいとは思っています。「武力」だけで今まで歴史的に見てもやっぱり国が貧しくなったりして色んな事があったりして起こってくるわけですけど、その中で色んな暴力が組みこまれていったっていう現実もありますし、その所を乗り越えていって、対話をするっていう言い方が、「非暴力と対話」という方がこれからの宣言文としては良いと思います。「武力」だけが本当に暴力かと言ったらそうではないですよ、そういう意味ではあらゆる暴力を否定しないと平和都市宣言をしていくにはどうなのかなと思います。

(委員長) 「非暴力と対話」というその辺のニュアンスが難しいかなと思います。「非暴力」というのは、大きい深い意味があって、それに対話を合わせるという所が無理があるのかなという気がしましたね。

(委員) 対話という、二つのパツと言えは簡単な言葉の様に聞こえると思う

んですけど、戦争とか対立とかの起こる背景に何があるかという、やっぱり疑心暗鬼。相手を信じられない。という部分が大きいと思うんですね。それは、日本人同士であったり、海外、日本と他国であったり。その中で平和を構築していくためには、相手の事を知る。対話をしていかないと、平和は来ないという、この「対話」という言葉には、ものすごく深い意味がありますので、「非暴力と対話」と入れても、私は全然おかしくないと思います。

(委員) おかしくない。全ての事を対話でしていかないと、それこそ経済封鎖なんかも暴力だというふうに書いてありますけれども、本当にそうだと思いますね。これも対話で解決しなきゃ、また戦争になっていく原因になりますよね。ですから、全ての事は話し合い、簡単に言えば、優しく言えば話し合いですけど、私は別に良いんじゃないかなと思いますけど。

(委員) これ、「非暴力と対話」になるんでしょ。暴力でなく対話でというそういう言い方と同じですか。違いますか。どうなんでしょう。暴力でなく、対話であつたら効果はないです。

(委員) 暴力があつた時に対話をしましょう。という…

(委員) だから、対話っていうのが「非暴力」の基本ですね。

(委員) そうですね。

(委員) だから、暴力でなく対話でいきましょう。という、そういうとらえ方でいいですね。となると、暴力でなく対話でと言ったら、「と」と入るのはおかしい。と、僕は思います。

(委員) 文面としてですね。内容ではなく、文面を少し変えた方が良く。

(委員) 「と」と入ると、やっぱり何か同じような事を書いている様な気がするんです。「非暴力」で解決すると言うんだつたら、「非暴力と対話」、「非暴力」の基本は何かと言つたら対話という事をとらえると、同じ事が二重になっている。

(委員長) 「非暴力」という言葉が、一般的にどれだけ理解があるかという

事と、そうか分かりやすくどこかに書いたりした方が良いのかもしれない。まあ宣言文だから、これは、格調高い表現にしておけば良いのですが。

(委員) こども達には、暴力っていう言葉はすごく分かりやすいんじゃないかな。火がついたではないですけど、暴力って言ったら、喧嘩とかいじめとかそういうので、日常的に出てくる言葉ですね。暴力というのは。だから、そこに火がついているとちょっと異なる言葉になってしまうかもしれませんね。

(委員長) 例えば先ほど、言っていたように、暴力でなく対話でという風に直せばどうでしょう。ちょっとおかしいですかね。「非暴力」っていう言葉をやっぱり入れた方が良いのか。

(委員) 結構子ども達は、言葉の暴力とかね、学校でも日常的にそういう事を学んでいるので、そういうのはきちっと習っていると思うんですよ。人権教育なんかもやっていますので、子どもも抵抗ないのでは。非暴力宣言をしようというのもあります。具体的に言うと、イラクがこうだからアメリカはこうやったみたいな、何かがあったからこうする事は許される。みたいな事も含めて暴力否定をしていこうと言う事があり、暴力という言葉が割と市民権を得てきています。それと並列にする事によってある意味、強調できると思うのです。じゃあ、「非暴力」という事に対しては、どういうふうな解決策をね、相手が悪ければ罰を与えるためにたたくとか、攻撃するとかいう事じゃ無かったら、その解決策としたら、やっぱり対話をしていこうという事だと思うんですよ。だから、これは別に並列を使う事は私は全然問題なく感じるんですけども。

(委員) この最初の方のAの方の意見ですが、経済封鎖は暴力ではないかというこれに対してどう考えるかですね、こういうのを暴力ととらえると、そういう解決の仕方は一切認めない。っていう事になりますね。というご意見なので、その辺の所をどう「非暴力」というものをとらえるかね。現実的にやられている、これもいかんのだという経済封鎖とか言う事も、これも認めないというそういう発想で「非暴力」という言葉を入れるというのであったら、それで納得できます。これを仮に、暴力だとこちらが認められるんだしたら、「非暴力」という言葉は、おかしいと思いますね。だから、今ここに指摘されている、これは「暴力」と違うのか、これは現実的には、これも正当な解決策として、使っていけるんじゃないかという御意

見だと思っんですよ。だから、それを認めるのか、認めないのか。これは、もう「暴力」とは言わないと言う事なのか。こういう事も一切これから使うべきではない。と言うふうに思って、「非暴力」という言葉を入れるのか。だから、ここに出されている御意見を、どうとらえるかという様な一つの意見です。

(委員) 経済封鎖っていうのもね、本当の事の解決になっていくのかどうかっていうのは、実際分からないと思っんですよ。だから、その為の対話だと思っんですね。知らない、お互いを知らない事とか、先ほど疑心暗鬼とおっしゃったけれども、そういう事からのお互い自分達の正当性だけを協調してね、それで行っていく戦争って今までにも過去にありましたよね。その中からの場なりで、言える範囲の所での、「非暴力」という事を言えば良いと思っんです。で、経済封鎖に関しては、色んな国の考え方もあるでしょうし、実際にその事が、じゃ平和に結びつたのかっていう結果には、私はちょっといかなものかという所もやっぱりあります。だから、じゃあそれがすぐ平和への対策ですか？と言ったら、そういう風な工程も中々逆には難しいんじゃないかなと思っます。

(委員) そうですよ。やっぱり「非暴力」だと思っますから、その事をした事によって、平和ができるという訳ではないですよ、やっぱり経済封鎖も暴力と認識して、それも対話で解決していきましょう。という、もちろん非現実的ですよ。すぐできる様な事じゃ無いですけど、今は本当に非現実的な事を希求しているわけですから、やっぱりみんながそういう事をしていく方がいいんじゃないか。

(委員) 現実的では無いですけど、現実的な事を考えると、この宣言自体がいかなものかと…私は思っますので、やっぱり後の方でも述べている様に50年100年先まで未来にこれを…っていう事を思っておられる皆さんのそういう意見もありますので、現実的に考えるとこれは…私達がここに今居てる自体がいかなものかと思っるので、現実的では無いけど、それを世界平和、宇宙平和など言われてましたけど、それ位の事を考えていくにはどうしたら良いかと言ったら、やっぱり現実的では無い事を考えなくちゃいけないのかなと思っます。

(委員) 考えなくちゃならない。世界中から戦争が無くならないという事があるから、現実的では無いと思っんです。でも、なおかつそれを求めて

いこうというのが、この宣言ですし、私達の日常の願いですので。

(委員) 世界は、こういうふうなもので動きませんからね。それこそ、それぞれ国の利益を中心に考えて動いていますので、経済封鎖も現実に行われていますからね。それが本当に正しいかどうかというのは、問題ですね。だから、そういう事を含んだ理想を求めて…という事ですね。「武力」となるとかなり範囲が狭まる、戦争をしない為の武器を使った暴力ですね。それ以外の暴力っていっぱいありますから。暴力という言葉の方が良いのかもしれない。「非暴力」という言葉で説明した方が良いのか。暴力を無くし…とかそういう言葉でいくのか、その辺をね。暴力という言葉、それは広い範囲の言葉ですが…

(委員長) 皆さん、どうでしょうか。事務局の回答(案)では、「武力でなく…」という風にして、書いていただいているわけですがけれども、「武力でなく…」というね、なっているんですけど、確かにその「武力」というだけで限定してしまうというのは、ちょっと狭いかなあと…思います。皆さんの御意見が、非暴力という「非暴力と対話」という形で良いのではないかという事なので、これを変えさせていただいてよろしいですか？

(委員) 異議なし。

(委員長) そうしたら、次の提案者Bですね。

(委員) 元のままですね？(仮)起草文通り？

(委員長) 元のままです。(仮)起草文通りになるという事です。次は、Bですね。

(事務局) 資料4ページを説明。

(委員長) という回答(案)ですが、「ぼくたち、わたしたちも平和のためにできることをがんばります」という所が「ぼくたち、わたしたちも平和な未来のためにできることをがんばります」というふうに修正されています。事務局の方から修正していただいているんですけども、それについての御意見はどうでしょうか。

(委員) 私は、事務局の案で良いと思います。

(委員) 私は、未来というのは今を見たらどうなんだ。という考え方がね、ちょっと薄らぐのではないかと…未来のためにだけじゃなしに、今の現実をという問題がね、どうなのかなと…未来のためにだけという固定をするというのが、今を何もしないのかという、逆に言えばとられるのかなと…未来のためだけ、将来のためだけ、今は何もしないという事では無いと思うけども、文言的に少しこの辺が薄らいでしまうのかなと…という思いはします。

(委員) 言葉って難しいですね。未来というのを、どこからを未来というのかをね、現在を含んでこれから先というとらえ方で、とらえたら良いかもしれぬ。細かくうまく表現してもらったら、提案されているみたいに「世界の平和のために未来の平和のために」と2つ書いておられるから、丁寧かも知れませんが。あまり長すぎても…。これから大事にしていこうと言う事だと思うので、悪くはないと思います。

(委員長) という事は、このたたき台の方で良いという事ですか？

(委員) はい。そうです。

(委員) 私はですね、もっともっと浅い考えで、これは平和メッセージの中の2つを入れたわけですよ？市民から寄せられた平和メッセージの2つをいれたわけですよ。その文章を別に変えなくてもいいんじゃないか。寄せられたものをそのまま入れたらいいのでは。

(事務局) 寄せられたメッセージそのものではありません。もともと象徴的な文章を作成しています。

(委員) そのままではないのですか。そうですか。もし、そのままであれば、変えてあげたら可哀想かなと。そうでなければ、どちらでも良いと思いますけど。でも、未来っていうと本当に未来っていつ？という事になると思うので、その部分は引っかかります。

(委員) 私は「ぼくたち、わたしたち」が今のぼくたち、明日のぼくたち、明後日のぼくたち、その時々ぼくたち、わたしたちで良いと思うんです

よ。ですから、未来とか過去とか関係なく、今のその時に生きていたぼくたち、わたしたちが、平和を構築していくためについていう意味をとれば、何も未来はいらないんじゃないかな。誰っていう事じゃなく、ぼくたち、わたしたちですから、いつもいつもぼくたち、わたしたちがいるわけですし、大きくもなるし、また新しいぼくたち、わたしたちも出てくるし、その人たちがいつもいつも平和を求めているので、あえて未来という必要が無いんじゃないかな。

(委員) 平和な未来って言ったら、さっきおっしゃった様にそういう感じ、同じ様に感じたんですけどね、そうなると世界と入れたくなるというかね。もっとシンプルで良いように思うんで、「平和のために」っていうのでいいんじゃないかな。

(委員) 少し変えようとしたら、例えば「平和を求めてできることをがんばります」位の幅ですね。

(委員) 「求めて」を入れるんですか。

(委員) 「未来」を取ってね。「平和を求めてできることをがんばります」とか。

(委員) たたき台に、世界とあるので、あんまり書くとくどくなるかな。

(委員) 上にも下にも「世界」という言葉が3つか4つ入っている。

(委員) 入れるとしたら、「平和」かな。

(委員) 子どもたちがどっちみち書いたので、足下の平和も大事なんで、もう「平和」で…世界もいらないかも。

(委員) この部分が今回の宣言文の目玉だと思うんですね。私はね。メッセージもたくさん来ました。まず先人の方の思いで、時代を担うっていう言葉が入ってますよね。次にこれを受けて、「未来のために」と言うので受けてね、3つ目に、この3つ目の、このCさんの案が次の議論になるんですけど、世代を越えて受け継がれるという事で締めてますね。この3つセットで、かなりグレードアップしたんじゃないかなと、私は思っているんで

す。きれいに連なっている様な気がするんです。ですから、このCさんの世代を越えてと、これまでのやつがね、多くの市民から…これも大事なんですね。要するに、これだけメッセージがきたよと。市民あげて、起草案（案）作りに関わって下さったという思いが最初あったんで、最初こういう表現をしましたけれども、この世代を越えてと言うのを入れるとね、何かグレードアップしたんじゃないかという気持ちは、私はしていますけどね。そういうためにも、この「未来」はね、邪魔にならないのと違うかなと。返って良いんじゃないかと思えますけどね。

(委員) 「平和」だけをここに入れるとか、子ども達に「平和」なんて言葉、しょせん無理な事なんです。友達と仲良くするという考えですね、ただここにあんまり大きく「平和」というのをボンと入れるよりも、「未来の平和のために」の方が良いかな、そっちの方がまだ子ども達が前段として友達と仲良くする。そういう事もあるのかなと思います。単に「平和のためにがんばります」では…まあ仲良くする事が一番かな。友達との付き合いとか。そういう意味をとらえると、案外「平和な未来のために」という方が抽象的かなと思います。

(委員) ちょっと先に話がいつてしまつて悪いんですけど、多くの市民から寄せられたというよりは、世代を越えて受け継がれるの方が良いですね。何かスキツとした感じになっていると思います。

(委員) 良いですね。いい文になっていると思います。

(委員長) これは、「平和な未来…」？「未来の平和…」？

(委員) 提案された方は、「未来の平和」。逆ですね。

(委員) 現実的に、今はどうなのつて事ですね。

(委員) 今は平和じゃないつていう事が前提ですか。

(委員) 今は平和のために頑張つてないつていう事？

(委員) 今頑張つているのは、未来の平和のために頑張ろうと言う事ですよ。核兵器、内争とかもそうですし。ただそういうふうにとらえたら、「未

来」と入れた方が良い。現実今は、平和でない世界なんだという前提があります。今は平和じゃないんです。

(委員) 戦争がないっていう意味では、こども達は平和だと思っているんじゃないか。どうでしょうか。

(委員) 平和と思っているからという発想になると、ちょっとこどもの努力の余地が無くなるかな。やっぱり友達間の色々な問題、その次元での平和というとらえ方、今できる小さい友達との関わり方を、その中での努力ですから。

(委員長) 「ぼくたち、わたしたちの未来の平和のために」というのはどういう事かな。「わたしたちも平和な未来のためにできることをがんばります」自分達はやります。という事ですね。難しいですね。

(事務局) 事務局でこの「未来の平和のために」という御意見をいただいて、何故「平和な未来のために」という形の方が良いかという結論になったかと言いますと、「未来の平和」というと、やはり遠いイメージとなります。「平和な未来」というと、明日も未来なので、今も含めた決意として頑張れる表現として、良いのではないかという事でこのような表現にしました。

(委員) 繋がっている感じ、ありますね。

(委員長) 「平和な未来のために」という事は、今現実もやっぱり平和でない事もいっぱいあるし、それは今もあるけれども、先々もあるという事ですかね。そうすると、「ぼくたち、わたしたちも平和な未来のために」という事務局(案)なんですけれども、これどうでしょうかね。

(委員) 「ぼくたち、わたしたち」というのは、誰なんですか？今、生きている「ぼくたち、わたしたち」が大人になっていく段階なんですか。それともその世代、世代「ぼくたち、わたしたち」がいるわけですよ。こども達がどんどん新しく増えてくる。その「ぼくたち、わたしたち」というのは、どこに視点があるのですか。その今のこども達が大きくなっていく、その人達っていう意味なんですか。その時の「ぼくたち、わたしたち」だったら私は、「未来」がいらないんじゃないか。と思います。その時その時私達が頑張ります、とその時のこども達だったら良いんですけど、

この「未来」っていう場合、今のこども達がだんだん大きくなって大人になっていくその未来のために私達は頑張ります。というふうに聞こえるんですけど。その時その時、今日も明日も明後日も来年も、どんどん成長されていくわけですから、その「ぼくたち、わたしたち」っていうのは、どこに視点をおいているのかな。

(委員) 事務局の方のお話を聞かせていただいて、なるほどな。と思ったんですけども、平和都市宣言がもう22年前にできて、今も受け継がれて、今回、非核平和都市宣言という形で作ったのが、また30年後40年後に生きている未来の若いこども達も読んだ時に、自分達ぼくたち、わたしたちも平和のために頑張ります。とそのときその時のこども達がそう思うわけですよ。それを含んでいる「ぼくたち、わたしたちも」っていう事だと思えます。で、未来を平和にしようと思ったら、その時に生きている「ぼくたち、わたしたち」が、その時にできる平和の事を、例えば友達と仲良くするとか人を尊敬するとか、できる事があって、初めて未来の平和があるんだ。という意味じゃないですかね。違いますか？そうじゃないと、事務局の方が考えられたのよりも深い、奥深すぎて理解するのに説明文がある…でも、今聞かせていただいてなるほど。と思いました。

(事務局) この議論が終わってからの話になるんですけども、参考資料で説明で考えさせていただいた、ここの後々の話にもなってくるのですが、この後の文章を「世代を越えて受け継がれる」という表現にしたとすれば、ここにどういう意味を持たせるかという事を考えました時に、現在の今回平和メッセージをいただいたという意味においては、いわゆる大人の世代からこどもの世代へ引き継ぐという意味と、今平成22年にいただいた皆さんの平和への思いと未来の30年後、50年後の先の未来の皆さんも同じ事を考えられる。そういう意味の世代を越えて受け継がれるという事で、2つの意味を持たせたらどうかというので、こちらであげさせていただいた案にはなっております。

(委員長) 結局3つ併せて、世代を越えてという形で、こういう風におっしゃっておりますので、単純に考えれば、今のこども達が平和の事をやったらいい、平和のために何かしようと。その時代その時代に次々長く組み込まれる中で、その時その時のこども達が、平和のためにというふうにした方がスッキリする様な気がします。そのさっき言われた「未来」っていうのは上の方についているんじゃないかなと思います。次代を担うこどもた

ちに伝えたい。という事は、未来という意味が入っているんじゃないかなと思うんですけどね。で、2つ目の文章としては、今の現実というか、今のこども達って入っていても、別に世代としておかしくはない。

(委員) 30年後のこどもが、30年前に作ったこの宣言文を読んでみてね、その時の自分達と同じこどもが、未来のために平和のために頑張るよと言ってくれているんだと、そういう事で頑張ってくれたんだと言うふうに自分で認識しますよね。そうしたら、今度自分はね、受け継いできてくれた平和を、自分らも未来へ受け継いでいかないとだめだという思いが、ここで30年後に見たこども達が見た場合に、「未来」がある事がね、ものすごくインパクトがあると思うんですよ。それがまさに世代を越えてと、私や僕たちの時代のために、その時のこどもは考えて頑張ってくれていたんだと、それが今の平和に繋がっているんだなど、よーし、僕たち私達もこの次へ…というそういう思いがね、この未来に受け継いでいくということですね。

(委員) 先人達の思いという事ですね。

(委員) そういう事です。それを伝えて繋げていこうと、次々と。

(委員) こども達も自分達だけの事じゃなくて、次の人達のためについている。

(委員) こども達は30年前に、こんな事を考えてくれていたのかと。その時の平和じゃなしにね。未来の平和を考えてくれていた。だから、今平和なんだと言う様な思いで、読むのではないかと思うんですけど。

(委員) 上に書いてある次代を担うのはこども達だと、未来を担うのはこども達で良いと思います。上の文は大人の事を言ってるんですよ。下の文はこども達の事で。それをそうして世代を超えて受け継がれるという文面、うまくまとまっていると思います。

(事務局) 今のこども達も未来の事を考えてくれなかったら、そこで止まると、そういう事です。

(委員) すごい説得力があったので、良いと思います。

(委員長) そしたら、これはたたき台の方で、「平和な未来のために」という事でよろしいでしょうか。それでは、次が5ページのC案になっています。よろしく申し上げます。

(事務局) 資料5ページC1を説明。

(委員長) これは、先ほどの議論にもありましたので、あまり問題は無いのではないかと思うのですが、何か御意見があれば…

(委員) 言葉は良いと思うのですが、私は泥臭いこの「多くの市民から…」と、今の時点で普遍的にそれを受け継ぐのは当然の話としてね、これを作った時の心意気はこういうことでしたよ。というのが、どっかに私は入っていても良いかなあという思いがちょっとするのでね。泥臭いこの文言であつても私は…まあ当然世代を受け継ぐのは、この宣言文を受け継ぐのは当然の話ですよ。という思いで、この泥臭いやつでも、作った時にこういうことで作ったんですよ。という思いでも良いかなあという思いはあります。文言は確かにサラッと流れるから、受け継がれるというのは、当然の話で、宣言文自体は、受け継がれるのは当然の話という思いが少ししました。

(委員) 前に足しても繋がらないですね。「今回、多くの市民から寄せられた」、世代を超えて受け継がれる」というと、繋がらないし、長くなり過ぎますね。

(委員長) どうでしょう。何か御意見は。なかったら、これはそうしたら、「世代を超えて受け継がれる」という形に変えさせてもらって良いでしょうか。それでは、たたき台の方でいくことにします。次に、C2ですね。お願いします。

(事務局) 資料5ページC2を説明。

(委員長) 色々な御意見があつて、地球という形で書かれてあつて、地球環境を守っていくと言われているんですけども、起草案の中には「家庭から地域、地域から世界へ」という形で大きく広げていくという事になっているので、この辺について御意見どうでしょうか。なかなか、この文面を入れるというのは難しいですね。

(委員) 私が一番始めに申し上げた様に、非核っていう問題はグローバルな問題だと思うんですけど、そこに地球環境まで入れちゃうと、ちょっと幅が広がりますね。散漫になってしまうんじゃないかなという気がします。地球環境はちょっと難しいんじゃないかなあと思いますね。

(委員) 私はここに書いてあるたたき台で全て問題ないと思います。

(委員長) どちらかと言えば、感想みたいなところもありますよね。

(委員) 御意見ですね。

(委員長) 意見ですね。こういうふうには、直すっていうのはグローバルという事ではあんまり…要するに、地球環境っていうのも入れた方がいいんじゃないかみたいな事でしょ。そうになると、ちょっと大変ですね、広くなりすぎて。

(委員) 平和都市宣言だから、平和というのが前面に押し出されないと。ものすごく良い言葉だなあと読んでいたんですけど、足元から平和を築いていって、そこから世界というこれはグローバル化だと思うんですね。笑顔と思いやりというのは、人間の基本だと思うんでね。平和へのね。思いやりというのは、人間への思いやりもあれば自然への思いやりもあると思うんです。この思いやりというのがなかったら、自然も壊れるし、だからやっぱりこれはもう普遍的な所だから良いなあ、僕は思います。これを基本にして平和を作っていくというのが基本かなと。

(委員長) 他に御意見ございませんか。

(委員) 何か、前に資料を見せてもらった時に、「あらゆる生命…」みたいな事が書いてなかったですか。そんな言葉あったんじゃないかな。と思うんです。表現がね、どういう表現を言っているのか、例えば核というのは人間の傲りですね、だからそういう意味では自然が破壊される事とか、そういう事に関しては絶対人にも返ってくるし、自分達、人間だけ住める所で議論が少しあったかと思うんですけども、人間だけの命という問題でなくて、あらゆる生命のっていうね、そういう事がもし一言でも入るならこの事には、答えられるんじゃないかなという気はしたんですけど。例えば、初めの頃、世界のどこかで、人の命の、あらゆる生命の…みたいな事

にしても良いのかなあ。

(委員) でも、あまり入れたら、結果としてつかみ所のない宣言になってしまうのではないですか。これで私は良いと思います。

(委員長) 全部変えていかないといけなくなりますよね。

(委員) 変えないといけないですよ、こういう意見があると。

(委員長) 確かにね、制度とかも、仲良くするとか…そうしないと後の文章も全部変えないとだめになりますし…

(委員長) 一応、これはそういう御意見を聞かせていただいたという事で、家庭から地球、グローバルな問題についてはこの文章にさせていただくという様な感じでもよろしいでしょうか。それでは次にDの方ですね。

(事務局) 資料6 ページを説明。

(委員長) ありがとうございます。提案者Dですね。意見とか考えとかが多く入っています。回答としては、グローバルな視点が含まれているという形で。

(委員) さっきも言っていた様に、これが起草の初めの段階で出てましたら、また変わってきたと思います。意見の中でどれを入れるとも入ってないですし、こういうのが後ろにバックグラウンドとしてあるという事なのだと思います。それは、全部含まれていると思いますので、この回答(案)で私は良いと思います。

(委員) 地球の歴史が5億年の歴史ですけども、その中で生命が存在するというのは宇宙で珍しいわけで、太陽の距離とか色んな関係で、かけがえのない地球なんです。本当に宇宙のなかで珍しい存在の中で、生命が存在しているのだからと思いますけど、それをこの宣言文の中に盛り込むと、ものすごく難しい中身になりますね。これをバックボーンに持って行くのは大事ですけど。

(委員) この下から10行目の「平和や生命(いのち)の…」の時に、こん

な議論しませんでした？それで、これを生命（いのち）と読もうと…。

(事務局) 上の命と、下の生命の違いですか。そういう違いですね。

(委員) その所のちょっと回答の中に入れておいてもらった方がね。

(事務局) 今おっしゃっていただいた話は、上の起草案（案）の二つ目の文章の人の命というのは、人間達だけれども、メッセージの集約の上の一文目の生命（いのち）というのは、人間だけじゃなくて、あらゆるものも含まれるのではないかということですね。地球生命の。

(委員) そこを、ちょっと回答の所に差し込んだ方がいい。解説差し上げた方が良いでしょう。その所も議論していますよという事で。

(委員) 私が、見せていただいた時にそういう表現のものがあつたと思うんですよ。

(委員長) 他に何か御意見はありますか。それでは、ここのところは訂正は無いという事ですね。その次、最終Eですね。お願いします。

(事務局) 資料7 ページ E2 を説明。

(委員長) これについて、どうでしょうか。「地球市民」や「宇宙市民」とか。

(委員) 日常的には、「地球市民」「宇宙市民」そこまでグローバルにももの考えてない。私は、そういう所まで使わなくても良いんじゃないかなあと思います。

(委員長) 他の方、どうですか？

(委員) 非核平和都市宣言というのは、分かりやすいのが一番だと思います。「地球市民」「宇宙市民」それを取り入れるとなると、また説明がいります。このたたき台に書いていただいているので、良いと思います。

(委員長) 他の方、どうですか？それでは、これがグローバルな視点という事で、たたき台でいかせていただきます。次に、E1の方、お願いします。

(事務局) 資料7 ページ E1 を説明。

(委員長) これについては、どうでしょうか。具体的な方法というのを、書いているんですけども、どうですか？

(委員) たたき台でけっこうです。

(委員長) よろしいですか。それではこれで、7件のパブリックコメントに対する回答提示をいただきまして、起草案(案)が確定をいたしました。事務局の方から出ているたたき台等と少し変わる事になります。

(事務局) それとAの回答だけは、回答内容を変えないといけないですね。

(事務局) 今ご協議いただいた御意見で、回答(案)の修正(案)を作成しましたので読み上げます。「経済封鎖が暴力と言えるかどうかは、さまざまな考え方がありますが、核兵器の廃絶と世界の平和を訴える手段としては、いかなる困難があっても暴力的な手段によるべきではないとの強い決意を「非暴力」と表現しています。」いかがでしょうか。

(委員長) 結構です。そうしたら、確定した起草案(案)ですけども、事務局の方から読んでいただけますか。

(事務局) 「非核平和都市宣言起草案 やすらぎと希望に満ちた平和な日々を送ることは、世界の人々の願いです。しかし、いまも世界のどこかで人間(ひと)の命の尊さを踏みにじるような争いが続き、人類は、核兵器の脅威にさらされています。原子爆弾による広島・長崎の苦しみや悲しみが、二度と繰り返されることのないよう、私たちは、日本国憲法が掲げる平和理念に基づき、非核三原則を守り、非暴力と対話で、核兵器の廃絶と世界の平和を訴え続けなければなりません。「戦争の悲惨さと平和や生命(いのち)の尊さを、次代を担う子どもたちに伝えたい」「ぼくたち、わたしたちも平和な未来のためにできることをがんばります」世代を越えて受け継がれる『平和への思い』が、世界平和への希望の光となることを信じます。私たちは、木津川と甘南備山に包まれた豊かな自然と先人が築いてきた歴史や文化を大切に、互いに尊敬しあい、家庭から地域、地域から世界へと笑顔と思いやりの輪を広げながら、一人ひとりが平和の実現に向けて努

力することを誓い、ここに京田辺市が非核平和都市として歩むことを宣言します。」以上です。

(委員長) どうもありがとうございました。それでは、ただいまお読みいただいた起草案(案)で決定をする事について、確認をさせていただきます。ご承認いただける方は、拍手をお願いします。

(拍手多数)

(委員長) ありがとうございます。多数の拍手をいただきましたので、起草案(案)が決定されました。続いて、起草案の特徴等につきまして、協議して参りたいと思いますが、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局) 訂正箇所のみ説明させていただきます。まず参考資料非核平和都市宣言起草案(案)の特徴等の1ページですが、こちらの部分につきましては、基本的にはほぼ変わっていない状況ですが、①の所に、多くの市民から寄せられたといったという様な表現を盛り込んだという部分がございますので、その部分だけ削らせていただいたという形になっております。が、大部分は変えていません。で、個々の解説が次の2ページからでございますが、これも第4回の起草委員会でご協議いただきました内容で、今回3番目の四角囲みの部分に変更無しという形ですので、もともとの文章にして、本文・解説文共に、「武力」ではなく、「非暴力と…」という事にまた修正をし直しをさせていただきます。2ページの一番下の四角の囲みですが、こちらの部分については平和な未来、「未来」を入れましたのと、多くの市民から寄せられたというのを、「世代を越えて受け継がれる」という形に変更させていただきました。こちらの文につきましては、3ページの様な解説となっております。2つの文章を直しました関係もございますので、こちらにつきましては、つながり等もあるかと思っておりますので、この文を全文を読ませていただきたいと思いますので、宜しくお願いします。「前述の核兵器の廃絶と世界の平和を訴えるとの決意を受けて、市民のみなさんから寄せられた平和メッセージを2文に集約して表現しています。1番目のメッセージは、戦争を体験された世代が戦争の悲惨さを次世代には体験させたくないとのメッセージや、平和や生命の尊さを次世代に伝えていきたいなどのメッセージを集約して表現しています。2番目のメッセージは、1番目のメッセージを受けた子どもたちのメッセージを表現しています。子どもたちから多数寄せられた平和メッセージの中には、平和へ

の決意をあらわす心強い表現が多くあり、「ぼくたち、わたしたち」が「がんばります」としてその思いを表現しています。1番目と2番目のメッセージを合わせて、世代から世代へ平和への思いを受け継いでもらいたいとの思いを込めています。そして、こうした平和メッセージや平和の折り鶴に寄せられた市民の平和への思い、のみならず、平和推進事業チラシなどを通じて平和について考えていただいたことなどを含めて『平和への思い』として強調して、これが、世界平和を開く希望の光になるとの思いを表しています。また、この部分は、まさにこの非核平和都市宣言が、市民のみなさんとともに作りあげられたことも表現しています。さらに、前述の「世代を越えて受け継がれる」という表現には、この『平和への思い』は、現在の市民のみならず、未来の市民にも、世代を越えて共有してもらいたいとの思いも込めています。」といった形にさせていただきました。

(委員長) ただいま説明がありました特徴等につきまして、御意見ありますでしょうか。

(委員長) 無いようですので、ただいまご協議いただいた特徴等で決定したいと思います。ここで、今後の予定につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

4 今後の予定について

(事務局) それでは、本日机の上に置かせていただきました次第の方を御覧いただきます様にお願いいたします。本日、起草案(案)を決定していただきまして、ありがとうございます。今後の予定ですが、4番の所に上げさせていただいております。来週の2月3日で、3時半からになりますが、京田辺市平和都市推進協議会の第二回の臨時総会を予定しております。この場におきまして、本日決定いただきました起草案(案)につき、協議していただきまして、協議会としての起草案を決定いただく事となっております。その後、協議会の会長の方から市長に起草案につきまして、報告をいただきまして市の内部手続き、又、議会への報告等を得て、宣言をするという予定を考えさせていただいております。具体的な日程といたしましては、その他にあげさせていただいております通り、非核平和都市宣言式を、3月20日11時~行うという事で、今準備を進めさせていただいている所でございます。以上です。この宣言式につきましては、起草委員の

皆様方にもご案内をさせていただきたいと考えておりますので、ぜひご参加のほど、お願いしたいと思います。

(委員長) 今の説明について、何か質問ありますでしょうか。本日予定の議題は以上ですが、委員の皆さんから何か他に御意見等ないでしょうか。ないようですので、以上をもちまして、本日の議事は終了いたしました。皆様のご協力によって、起草案(案)が作成できましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

5 副委員長挨拶

(副委員長) 皆さん、大変お疲れ様でした。5回に渡りまして大変熱心にご議論いただきまして、ありがとうございました。大変立派な起草案(案)が出来たというふうに思います。こういったものができる時に、本当に改めて身のひきしめる思いがいたしますけれども、この思いが次の世代につながって、私たちがこうやって議論した事が活かされたら良いなと思います。ぜひ、今後、宣言式等ございますけれども、最後までご協力の方、宜しくお願いいたします。

6 閉会